

北海道大学大学院医学研究科/医学部医学科



58 号

2014 (平成26) 年 2 月

・新年のご挨拶	◆研究科長より	◆表敬訪問
◆学術・教育 ・Marshall & Warren Medalを受賞して 2 ・第8回連携研究センターシンボジウムを開催 4 ・MD-PhDコースについて 5 ・大学院教室紹介「呼吸器内科学分野」 6 「北大セミナー in 北見」を担当して 8 ・第10回日本核医学会研究奨励賞 最優秀賞 を受賞して 9 ・サスティナビリティウィーク2013実施報告 10 ・北海道大学ブレスリリースより 9・サスティナビリティウィーク2013実施報告 10・北海道大学ブレスリリースより 11・ウ料来因子の取り込みを制御するシグナル伝達機構を解明ーウイルスの宿主侵入機構研究への展開 11・自然免疫の活性化に関与するタンパク質の立体構造解明 12・受賞関係 13 「研究科長より 新年のご挨拶 ◆お知らせ	· 新年のご挨拶 ······ 1	
 ・ Marshall & Warren Medalを受賞して 2 ・ 第8回連携研究センターシンポジウムを開催 4 ・ MD-PhDコースについて 5 ・ 大学院教室紹介「呼吸器内科学分野」 6 ・ 第10回日本核医学会研究奨励賞 最優秀賞 を受賞して 9 ・ サスティナビリティウィーク2013実施報告 10 ・ 北海道大学プレスリリースより ・ 小脳による時間情報処理のメカニズムを解明 11 ・ 外来因子の取り込みを制御するシグナル広達機構を 解用・ウイルスの宿主侵入機構研究への展開 11 ・ 自然免疫の活性化に関与するタンパク質の 立体構造解明 12 ・ 受賞関係 13 	◆学術・教育	B. J. Textavaniel
 第8回連携研究センターシンボジウムを開催 4 MD-PhDコースについて 5 大学院教室紹介「呼吸器内科学分野」 6 「北大セミナー in 北見」を担当して 8 第10回日本核医学会研究奨励賞 最優秀賞 を受賞して 9 サスティナビリティウィーク2013実施報告 10 北海道大学プレスリリースより 9 小脳による時間情報処理のメカニズムを解明 11 ・外来因子の取り込みを制御するシグナル伝達機構を解明ーウイルスの宿主侵入機構研究への展開 11 自然免疫の活性化に関与するタンパク質の立体構造解明 12 ・受賞関係 13 研究科長より 新年のご挨拶 新年のご挨拶 ・無終講義のお知らせ 5 ・新規寄附講座設置のお知らせ 5 ・新規寄附講座設置のお知らせ 5 ・新旧教授授育別セミナーについて 5 ・消防訓練の実施 5 ・第17回 医局対抗サッカー大会 6 ・平成26年度 医学研究科 (博士後期・修士後期・学生募集出願状況 5 ・平成26年度 科学研究費補助金応募状況 5 ・平成25~26年度 行事予定表 5 広報室便り28・編集後記 5 広報室便り28・編集後記 5 ・新年のご挨拶		◆お知らせ
1 研究科長より 新年のご挨拶	・第8回連携研究センターシンポジウムを開催 4	
1 研究科長より	・MD-PhDコースについて 5	・新規寄附講座設置のお知らせ
 第10回日本核医学会研究奨励賞 最優秀賞 を受賞して 9 ・サスティナビリティウィーク2013実施報告 10 ・北海道大学プレスリリースより 9 ・小脳による時間情報処理のメカニズムを解明 11 ・外来因子の取り込みを制御するシグナル伝達機構を 解明ーウイルスの宿主侵入機構研究への展開 11 ・自然免疫の活性化に関与するタンパク質の 立体構造解明 12 ・受賞関係 13 ・第17回 医局対抗サッカー大会 12 ・平成26年度 医学研究科 (博士後期・修士後期 学生募集出願状況 12 ・平成25年度 財団等の研究助成採択状況 12 ・平成25~26年度 行事予定表 12 ・受賞関係 13 	·大学院教室紹介「呼吸器内科学分野」 ······· 6	・新任教授特別セミナーについて
を受賞して 9 ・平成26年度 医学研究科 (博士後期・修士後期・学生募集出願状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・「北大セミナー in 北見」を担当して 8	・消防訓練の実施
・サスティナビリティウィーク2013実施報告 10 ・北海道大学プレスリリースより ・小脳による時間情報処理のメカニズムを解明 11 ・外来因子の取り込みを制御するシグナル伝達機構を解明ーウイルスの宿主侵入機構研究への展開ー 11 ・自然免疫の活性化に関与するタンパク質の立体構造解明 12 ・受賞関係 13 研究科長より 新年のご挨拶		・第 17回 医局対抗サッカー大会
・北海道大学プレスリリースより ・平成26年度 科学研究費補助金応募状況 ・小脳による時間情報処理のメカニズムを解明 … 11 ・平成25年度 財団等の研究助成採択状況 ・外来因子の取り込みを制御するシグナル伝達機構を解明 … 11 ・平成25~26年度 行事予定表 ・自然免疫の活性化に関与するタンパク質の立体構造解明 … 12 ・受賞関係 … 13 ・受賞関係 … 13		
 ・小脳による時間情報処理のメカニズムを解明11 ・ 外来因子の取り込みを制御するシグナル伝達機構を解明ーウイルスの宿主侵入機構研究への展開ー11 ・ 自然免疫の活性化に関与するタンパク質の立体構造解明		
 ・外来因子の取り込みを制御するシグナル伝達機構を解明ーウイルスの宿主侵入機構研究への展開ー11 ・自然免疫の活性化に関与するタンパク質の 広報室便り28・編集後記 12 ・受賞関係 13 研究科長より 新年のご挨拶		
解明-ウイルスの宿主侵入機構研究への展開 1 1 ・自然免疫の活性化に関与するタンパク質の 広報室便り28・編集後記 … 12 ・受賞関係 13 研究科長より 新年のご挨拶		
1 研究科長より		· 平成25~26年度 行事予定表 ····································
1 研究科長より		広報室便り28・編集後記
1 研究科長より		
佐 〒 〒 曲 // いいき よくっちく 民災が虚める ことともに	±1716×2070	************
	・受賞関係	
でとうございます。皆様 た。こうした状況の下、医学研究科・医学部は	・受賞関係 13	れ、各大学医学部の使命を明確化する動きが加
	・受賞関係 13 13 13 13 14 14 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15	れ、各大学医学部の使命を明確化する動きが加また。こうした状況の下、医学研究科・医学部は
には、健やかに新春を を担う医学研究者・教育者」と「研究する心を	・受賞関係 13 13 13 13 14 14 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15	れ、各大学医学部の使命を明確化する動きが加また。こうした状況の下、医学研究科・医学部は を担う医学研究者・教育者」と「研究する心を
には、健やかに新春を を担う医学研究者・教育者」と「研究する心を お迎えになられたことと 導的臨床医」の養成という使命を掲げ、学部・	・受賞関係 13 ・受賞関係 13 研究科長より 新年のご挨拶 笠 原 正 典 (かさはら まさのり) 医学研究科 新年明けましておめ でとうございます。皆様 には、健やかに新春を お迎えになられたことと	れ、各大学医学部の使命を明確化する動きが加また。こうした状況の下、医学研究科・医学部は を担う医学研究者・教育者」と「研究する心を 導的臨床医」の養成という使命を掲げ、学部・
には、健やかに新春を を担う医学研究者・教育者」と「研究する心を お迎えになられたことと 導的臨床医」の養成という使命を掲げ、学部・ お慶び申し上げます。	 ・受賞関係 13 新年のご挨拶 笠原正典(かさはら まさのり)医学研究科でとうございます。皆様には、健やかに新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。 	れ、各大学医学部の使命を明確化する動きが加また。こうした状況の下、医学研究科・医学部は を担う医学研究者・教育者」と「研究する心を 導的臨床医」の養成という使命を掲げ、学部・ 育の充実と研究面における国際競争力の向上に
には、健やかに新春を を担う医学研究者・教育者」と「研究する心を お迎えになられたことと 導的臨床医」の養成という使命を掲げ、学部・ お慶び申し上げます。 育の充実と研究面における国際競争力の向上に	 ・受賞関係 13 	れ、各大学医学部の使命を明確化する動きが加えた。こうした状況の下、医学研究科・医学部はを担う医学研究者・教育者」と「研究する心を導的臨床医」の養成という使命を掲げ、学部・方の充実と研究面における国際競争力の向上にあります。幸い、医学研究科では多くの大型研究に
には、健やかに新春を を担う医学研究者・教育者」と「研究する心を	・受賞関係 13 研究科長より 新年のご挨拶 笠 原 正 典 (かさはら まさのり) 医学研究科でとうございます。皆様には、健やかに新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。 昨年は国による国立大学改革の一環として	れ、各大学医学部の使命を明確化する動きが加また。こうした状況の下、医学研究科・医学部はを担う医学研究者・教育者」と「研究する心を導的臨床医」の養成という使命を掲げ、学部・育の充実と研究面における国際競争力の向上にります。幸い、医学研究科では多くの大型研究クト、人材養成プロジェクトが進行しています。



グローバル化推進が打 ち出され、世界と競う 大学を選別し、そこに 予算を戦略的・重点的

に配分する方針が明確にされました。また、国立大学 医学部の設置目的を問う「ミッションの再定義」が行わ

れ、各大学医学部の使命を明確化する動きが加速しまし た。こうした状況の下、医学研究科・医学部は「次世代 を担う医学研究者・教育者」と「研究する心をもった指 導的臨床医」の養成という使命を掲げ、学部・大学院教 育の充実と研究面における国際競争力の向上に努めてお ります。幸い、医学研究科では多くの大型研究プロジェ クト、人材養成プロジェクトが進行していますが、競争 的資金の獲得には今後一段と力を注いでいく必要があり ます。このため、新たに研究戦略室を設置し、外部資金 獲得や人材の戦略的任用を支援する体制を整備したとこ ろです。人材の戦略的任用については、研究科長裁量人 件費ポイント枠を設けたほか、寄付金を活用して教員を 任用し、研究の活性化を図る「特任研究教員制度」を本

年より導入することになっております。

北海道大学では、平成26年度から国際連携研究教育局(Global Institution for Collaborative Research and Education: GI-CoRE)と呼ばれる組織が新設されることになりました。これは、本学の強みと特色を生かして世界・学内の第一線研究者を結集し、教育研究に集中できる環境を提供する総長直轄の教員組織です。GI-CoREには二つの研究ユニットと一つの教育ユニットが設けられますが、研究ユニットの一つは量子医理工学グローバルステーションです。ここでは放射線医学分野の白土博樹教授らが開発した分子追跡陽子線治療装置を中心としたがん治療に関する研究が、スタンフォード大学の研究者らとともに展開される予定です。このような形で医学研究科の研究が本学を代表する研究として認知されたのは大変うれしいことです。

学部教育では、昨年4月入学者からカリキュラムの大改正を行い、診療参加型臨床実習を大幅に強化しました。この実習では学生が診療チームの一員として診療業務を分担するため、今まで以上にきめ細かな指導が要求されます。これに対応するため、新年度から臨床実習を支援する教育助教を3名増員して9名とし、医学教育推進センターに配属する予定です。昨今、医学教育では国際的な質保証が強く求められております。本学部においても、世界医学教育連盟のグローバルスタンダードに準拠した教育課程を用意し、医学教育の更なる充実を図っていく所存です。一方、大学院教育では、基礎医学研究者を目指す医学科卒業生を受け入れる「研究者養成プログラム(MD-PhDコース)」が定着し、昨年にはプログラム修了者がはじめて特任助教に採用されました。ま

た、昨年4月から新たに臨床研修2年目から研修と並行して大学院博士課程を履修できる「CLARCプログラム」が導入され、順調なスタートを切っています。とは言うものの、大学院入学者はここ数年、定員を下回る状態が続いています。この状態を改善するには、今まで以上に大学院教育の魅力を知ってもらう努力を払うと同時に、より多くの医学部卒業生に本学で初期臨床研修を行ってもらい、その後大学院に進学してもらうようにしていくことが不可欠であると考えています。

さて、北海道大学医学部は2019年に記念すべき創立100周年を迎えます。新しい100年に向かって確かな一歩を力強く踏み出すことができるよう、記念事業を計画しております。4月には実行委員会を立ち上げたいと思っておりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。記念事業の内容につきましては固まり次第、改めてご案内申し上げます。

若手医師の大学離れ、大学院入学者数の減少など、医学研究科・医学部には課題が山積しております。こうした課題を解決するためには、医学研究科・医学部と病院が連携して、卒前教育から初期臨床研修プログラム、大学院教育プログラム、後期臨床研修プログラムをシームレスに繋ぐ魅力的な医学教育・研修プログラムを構築していくことが必須です。この点に関しては、今後ワーキンググループを設置し、鋭意取り組んでまいりたいと思っております。

皆様におかれましては、本年もひき続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。平成26年が皆様にとりまして希望に満ちた良き年となりますことをお祈り申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

2 学術・教育

Marshall & Warren Medalを受賞して

浅 香 正 博 (あさか まさひろ) がん予防内科学講座 特任教授



2013年9月12~14日にわたってスペインのマドリードで開催された第26回欧州へリコバクター会議でMarshall & Warren Medalをいただきました。欧州へリコバクター・会議は、ヘリコバクター・ピロリに関する国際会議のうち、最も歴史が古く権

威のある会議で、世界のヘリコバクター・ピロリ研究者の多くが参加しています。Marshall & Warren Medalは

2006年にポーランドのCracowで開催された会議で、その年のヘリコバクター研究における最高賞として設定されました。この年は、ノーベル賞を受賞したMarshall教授と地元ポーランドのヘリコバクター研究の重鎮であるKonturek教授の2名に初めて贈られました。以後は、1年に1名ずつ胃がん研究における世界の権威であるCorrea教授らヘリコバクターの研究者に贈呈されています。

欧州ヘリコバクター会議はわれわれアジアの研究者にとっては結構ハードルの高い会議でした。組織委員会のメンバーはすべて欧州の研究者であり、プログラムも運営もすべてこれらメンバーによって行われてきま

した。したがって、メインの講演はほぼすべてが欧米の 研究者によって行われ、アジアからの発表の大半はポス ターでした。10数年ほど前から、会議の前日に欧州と 極東(日本、中国と韓国)シンポが2年に1回行われる ことになりましたが、メインではなかったのでプログラ ムには掲載されなかったのです。変化が見られるように なったのは、日本や韓国からの参加者が増えてきたころ からであると思います。ヘリコバクター・ピロリと胃炎 や胃・十二指腸潰瘍の関わりについての研究は圧倒的に 欧米がリードしておりましたが、最も重要な胃がんとの 関わりについてはアジアがリードできる可能性が出てき たのです。なぜなら胃がんの発生率は東アジアの日本、 中国、韓国で世界の60%近くを占めるからです。まず 1998年にわが国からスナネズミにヘリコバクター・ピ ロリを感染させて胃がんを発生させることに成功しま した。それに続いて、2001年、胃炎患者を10年間観察 したところヘリコバクター・ピロリ陽性者から5%の胃 がんが発生したのに対し、陰性者からは一例も発生し なかったというデータがわが国から発表され、The New England Journal of Medicine に掲載されました。このこ ろから欧米の研究者のわれわれを見つめる眼が変わって きたように思います。欧州ヘリコバクター会議の機関誌 Helicobacter が発行されたとき、30名のEditorial board memberのうち28名が欧米研究者であり、アジアからは 私と香港の研究者の2名のみでしたが、現在では7名に 増えています。ヘリコバクター・ピロリ診療に関する欧 州ガイドラインの作成委員会にも加えてもらえるように なってきました。この頃、ヘリコバクター・ピロリの除 菌によって胃がんの発生が抑制できるか否かが注目さ れ、世界中で臨床試験が計画されましたが、ほとんどが 失敗に終わりました。欧米のような胃がんの発生の少な い国では、1,000例前後のヘリコバクター・ピロリ陽性 症例を5年間経過観察してもほとんど胃がんの発生が見 られなかったのです。そこでわれわれは二次胃がん発生 がきわめて高い内視鏡手術後の早期胃がん患者に着目



し、無作為臨床試験を行ったところ、除菌群が明らかに 二次胃がんの発生を抑制しました。この結果は2008年 にLancetに掲載され大きな反響を呼びました。しかしな がら、除菌によっても抑制できない胃がんの存在も同時 に明らかになったのです。そのため、日本の高い胃がん の診療技術と内視鏡治療を組み合わせた胃がん撲滅計画 を2009年に発表しました。つまり、胃がんの二次予防 としてのヘリコバクター・ピロリ除菌と二次予防として の内視鏡によるサーベイランスを組み合わせる方法で す。これを行うことにより、除菌による胃がんの発生の 減少と内視鏡による胃がんの早期診断が可能になり、胃 がんで亡くなる人は激減することが予想されます。幸い にも2013年2月にヘリコバクター・ピロリ感染胃炎に保 険が通ったため、この計画はスムーズに進行することが 期待されています。今回のマドリードでの受賞で評価さ れたのは、世界で初めてヘリコバクター・ピロリによる 慢性胃炎の除菌に保険が適用されたため、この撲滅計画 の現実味が増したことによると思われます。

欧州消化器病学会の権威であるロンドン大学名誉教授のAxon先生による紹介の文を原文のまま掲載しますのでお読み下さい。

Presentation of the Marshall and Warren Medal to Professor Masahiro Asaka by Professor Axon

XXVIth International Workshop on Helicobacter and related bacteria in chronic digestive inflammation and gastric cancer

September 12-14 Madrid, Spain

Ladies and gentlemen, is an enormous pleasure to have been invited by the European Helicobacter Study Group to present the Marshall and Warren Medal to Professor Masahiro Asaka of Hokkaido University.

This is the ninth Medal to be awarded. It is presented each year to a senior research Scientist or Physician in recognition of outstanding and distinguished work in the field of Microbiology and Gastroenterology. The medal is a beautiful ornament engraved with the images of Barry Marshall and Robin Warren the two Nobel Laureates, on the obverse side and an engraving of a culture of *Helicobacter pylori* on the reverse side.

Professor Asaka was for many years Chairman and Professor of the Department of Gastroenterology at Hokkaido University and more recently Professor of Cancer Prevention. He is also President of the Japanese Society for Helicobacter research.

Professor Asaka is the author of over four hundred and fifty scientific papers, but it is not for this achievement that he is receiving this award; it is in recognition of the unflagging efforts he has made to encourage a policy to eliminate gastric cancer from Japan. Those of us who were privileged to listen to his superb lecture at the beginning of our meeting entitled "Roadmap to eliminate Gastric cancer in Japan" will understand the way he intends for this to be achieved. If successful, other countries with a high incidence of the disease will follow his lead. We look forward to a time when *Helicobacter pylori* has been eradicated from the Earth and Gastric cancer is no longer a curse to humankind.

Previous awards of the Marshall and Warren Medal have been made to:

2006 Barry Marshall, Perth, Australia and Stanislav Koturek, Cracow, Poland

2007 Mike Dixon, Leeds UK

2008 Timo Kosunen, Helsinki, Finland

2009 Pelayo Correa, Nashville, TN, USA

2010 Reinhold Stockbrugger, Maastricht, Netherlands

2011 Samy Cadranel, Brussels, Belgium

2012 Richard Hunt, Hamilton, ON, Canada

第8回連携研究センターシンポジウムを開催

第8回医学研究科連携研究センターシンポジウムが去る11月8日、医学部学友会館「フラテ」ホールにおいて 開催されました。

本センターは、平成18年4月に生命科学研究における 堅実な「知の探求」と飛躍的に未来を切りひらく大胆な 「知の創造」を追求する組織体制としてスタートしまし た。これまで、各方面と連携して、広い領域の科学技術 の成果を医療や健康維持活動分野におけるイノベーションへ発展させる研究活動の取り組みを行っています。

今回のシンポジウムには教職員・学生が参加し、各部門からの取り組みに関する報告において、最新の情報が提供されました。参加者にとって、有意義な情報が得られ、今後の取り組みに向けて新たな可能性が示唆されたシンポジウムとなりました。



MD-PhDコースについて

植 松 明 子 (うえまつ あきこ)神経生理学分野 博士課程1年

MD-PhDコースは早期に研究に携わることを目的としたコースです。このコースでは、医学部5年次に入学試験があります、合格すると6年次の長期臨床実習の期間に、志望した研究室で実習を行います。その後、もう一度面接試験があります。ここで、MD-PhDコースへの進学を決めると、臨床研修を経ずにそのまま大学院に進学します。

MD-PhDコースに興味がある方に聞かれる中で一番多いのが、学費が心配ですとのことですが、奨学金による補助がありますので、進学を考えていらっしゃる方は進学希望先の先生や、先輩もしくはMD-PhDコースの先輩に相談されることをおすすめします。きっと相談にのってくれると思います。

MD-PhDコースの方が所属している研究室は様々ですが、私は神経生理学分野に所属しています。私は、今自分が考えているという事や動いているという事が何故可能なのか不思議に思っていました。その鍵となるのは脳と時間だと考えており、せっかく大学に来たからには興味のあることを思い切りやろうと、脳に関する研究をしている教室を探して見学をお願いしました。その時お会いした先生方、先輩方の脳研究のお話や研究内容がとても魅力的だったので、研究室に出入りさせて頂くようになり、今に至ります。

神経生理学分野では、脳機能の理解のために、神経活動を調べる等の様々な方法で脳にアプローチしています。その中で私は現在、なかなか研究を進めることができず苦心して、何とか方法を見つけようと頑張っているところです。ですが、考えていられるというのはありがたいことだとも思っています。私がMD-PhDコースに進んで良かったと思う点は、おもしろいと思える研究に携わっていられる、これです。興味深い結果が得られたり、機序を考えていると心からわくわくします。おもしろくて新しい現象を予測し記録し、それを検証していきたいのです。

研究室を探す方法ですが、北海道大学にいると本当に 様々な分野の方々と話すことができます。少しでも興味 があれば、色んな所を見に行かれるとおもしろいかもし れません。私が教えて頂いた先生方は皆様丁寧に話して下さったので、とにかく行ってみるというのもありだと思います。予想していた所と違っても、そこで次のことを考えれば大丈夫ですので。また、しばらく出入りしていると雰囲気が何となくわかり、様々な面も見えてきたりしますので、とりあえず通ってみるのもおすすめです。

MD-PhDコースに全く迷う事なく進んでいらっしゃる先輩方もいますが、私は臨床実習にいくか迷い病院見学にいきました。ここに研修にきたいと思った魅力的な病院もあり最後まで悩みましたが、自分は今一番何がしたいかと考えたとき、やはり疑問を解決したい、知りたいという気持ちには勝てないなあというわけでMD-PhDコースに進学しました。

臨床研修とMD-PhDコース、どちらに進んでもとても 有意義な時間を得られていたと思います。最近聞いて印 象深かった言葉です「自分で選択する。そして、決めた ら進む。」そうありたいと思います。



大学院教室紹介「呼吸器内科学分野」

西 村 正 治 (にしむら まさはる) 呼吸器内科学分野 教授 鈴 木 雅 (すずき まさる) 北海道大学病院内科I 助教・医局長



本教室の起源は北海道帝国 大学医学部の設置に際し有 馬英二先生(東大卒)が大正 10年に内科学講座教授、医 学部附属病院長を発令され て着任したことに遡り、大 正12年の内科学第二講座の 開設に伴い、内科学第一講座 (通称・第一内科)となった。

昭和21年に第二代教授として山田豊治先生、昭和41年 に第三代教授として村尾誠先生、昭和57年に第四代教 授として川上義和先生が就任され、平成13年に西村正 治先生が第五代教授として発令され、現在に至ってい る。なお、平成12年の大学院大学化に伴い医学研究科 では「呼吸器内科学分野」となり呼吸器領域を診療・研 究の中心としているが、大学病院では「内科 I」として、 呼吸器疾患のみならず循環・代謝疾患も担当し広範囲な 内科診療にあたっている。平成25年12月現在、医局員 は57名 (スタッフ13名、医員9名、大学院生8名、後期 研修医5名、国内・海外留学5名、関連病院研修17名) であり、また同門会員は約500名を擁し、数多くの教授 を輩出している。道内に広がる関連病院は各地域の基幹 病院として呼吸器疾患に加え、循環器、内分泌代謝、消 化器、一般内科など、幅広く診療にあたっている。中空 知地区・南空知地区の関連病院では年一回同門会員の懇 親を兼ねた研究会が行われ、また今年度より大学病院と 関連病院を結ぶWEBカンファレンスも試みている。

本教室では伝統的に「全身を診られる良き臨床医を育 てる」という理念のもと、専門に偏りすぎない内科医を 養成するべく、研修医教育を熱心に行っている。病棟で の診療は疾患専門グループ(非癌呼吸器グループ、肺癌 グループ、循環・代謝グループ) を基盤とした主治医制 により行われており、初期研修医は指導医とペアとなり 責任をもって患者の治療を担当する。その上で専門的な 検査は主治医同伴で検査担当グループによって行われ、 検査や治療方針の決定は各専門グループが毎週開催して いる検討会で行われる。各グループの診療レベルは極め て高く、急性期医療から慢性期の外来医療まで責任を もって最良の医療を提供すべく努力している。中でも呼 吸器内視鏡検査は全国でもトップレベルにあり、特に全 国に先駆けてバーチャル気管支鏡システムの開発と臨床 研究に取り組み、製品化に貢献した。超音波気管支鏡シ ステムも完備しており、さらには硬性鏡を用いたステン ト挿入を含む呼吸器インターベンションも積極的に行わ れている。

本教室は学生教育にも伝統的に熱心であり、教官のかける熱意も大きい。5年次の2週間の臨床実習では学生2~3人が1人の患者を受け持ち、専任の担当教官のもとで身体所見のとり方から検査所見の読み方まで詳しく学び、週末の報告会では教授が直接指導している。さらに6年次の長期選択実習では各疾患専門グループに配属となり、主治医さながらに患者を受け持ち、グループの一員となって実践的な実習を行っており、どのように問題点を解決していくかというプロセスを重視した指導が行われている。

研究面では呼吸器病学に加えて、循環・代謝領域についても高い研究レベルを維持している。国際学会での発表も盛んであり、海外の専門医学雑誌への投稿論文も数 多い。以下、各疾患専門グループの紹介をする。

非癌呼吸器グループ

非癌呼吸器グループは呼吸器疾患の中でも非腫瘍性疾患(慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性肺疾患、呼吸器感染症など)を対象として広く臨床と研究を行っている。これまでは呼吸病態生理グループと免疫アレルギーグループに分かれて研究を行ってきたが、近年は両グループが有機的に統合し研究に取り組んでいる。

基礎研究では様々な疾患モデルマウスや手術肺組織、気管支肺胞洗浄液等の臨床検体を用い、呼吸器疾患の病態解明を試みている。特に、マウス喫煙曝露装置を有しており、喫煙誘導性の肺気腫モデルを作成することが可能である。その他、肺線維症モデル、急性肺障害モデル、アレルギー性気道炎症モデル等を作成して研究している。昨年より東京大学大学院医学系研究科分子病態医科学部門の宮崎徹教授のグループと、呼吸器疾患におけるマクロファージ由来アポトーシス抑制因子(AIM)の役割についての共同研究が始まり、大学院生一名を国内留学で受け入れている。この新たなプロジェクトは大型研究費である戦略的創造研究推進事業CRESTに今年採択され、本教室も共同研究機関として研究を遂行することとなった。

臨床研究では2003年より遂行している北海道COPD コホート研究が最も力を入れている研究の一つである。この研究は約300名のCOPD患者を登録した前向き観察コホート研究であり、現在で追跡10年目に入り、呼吸器病学のトップジャーナル(American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine(AJRCCM)誌)を含め興味深いデータを次々と発表している。この研究と並行して民間企業と共同で開発した3次元気道解析ソフトは国際的な評価も素晴らしく高い。西村教

授はCOPDの国際ガイドライン "GOLD"のExecutive Committeeに日本を代表してただ一人委員として参画しており、またAJRCCM誌のAssociate Editorを4年間にわたり務めている。次の大きな試みとして北海道難治性喘息コホート研究(Hi-CARAT)を2010年に立ち上げ、難治性喘息の病態解明を目指している。

肺癌グループ

肺癌グループは胸郭内の腫瘍性病変を対象として臨床と研究を行っている。肺癌においてはEGFR(上皮成長因子受容体)等を標的にした分子標的治療の開発により飛躍的に治療効果が改善しており、こうした分子生物学の成果に基づき、肺癌の高危険群の同定や悪性度、患者予後の指標となる新しい細胞生物学的・分子細胞学的バイオマーカーの探求や、新しい遺伝子治療・分子標的治療薬の開発を目指した基礎研究を行っている。

臨床研究では気管支鏡検査に関する研究を盛んに行 い、前述の通り日本をリードする立場にある。特に肺末 梢小型結節影の診断においては、バーチャル気管支鏡に よるナビゲーションとCT透視下あるいは気管支腔内超 音波断層法(EBUS)下経気管支生検を併用することで 極めて高い診断率が得られるようになり、世界的にも注 目されている。このためアジアを中心とした海外各国か ら留学生が研修に訪れている。また、多施設共同研究 NINJA Studyではこのバーチャル気管支鏡の有用性を証 明することができ、AJRCCM誌に発表した。胸部悪性 腫瘍の臨床試験も盛んに行っており、北海道の肺癌治療 の拠点施設を中心とした北海道肺癌臨床研究会 (HOT)、 また北海道、東北、北関東の肺癌拠点施設で北東日本肺 癌臨床研究グループ (NEJ) を立ち上げて様々な臨床試 験を行っている。中でも、NEJで行われた「EGFR遺伝 子変異を有する非小細胞肺癌に対するゲフィチニブとプ ラチナ併用化学療法との比較第Ⅲ相試験(NEJ002)」の 成果は2010年のNew England Journal of Medicine誌に

掲載され、世界的に注目された。その他、非小細胞肺癌、 小細胞肺癌、胸腺腫、胸腺癌などについて様々な臨床試 験が進行中である。

循環・代謝グループ

循環・代謝グループは、循環器疾患および代謝性疾患 (糖尿病・脂質異常症)を専門とするグループである。特筆すべきは、一人一人が循環器と代謝の両方の専門的知識を持っていることであり、全国的にみても珍しいが、循環器専門医、糖尿病専門医の両方を取得した医師を多く輩出している。両領域の専門医が並存する利点を生かし、動脈硬化性疾患の予防から治療に至るまで幅広い視点で診療、学生・研修医の指導を行っている。また、肺高血圧症や肺血栓塞栓症においては北海道でも随一の症例数を診療し、治験を含む新しい治療法に積極的に取り組んでいる。

基礎研究では、動物実験を通してIL-33やアミノ酸であるグリシンに注目し、これらの肥満や糖代謝に与える影響を検討している。また臨床研究では、心サルコイドーシスの早期診断におけるFDG-PET、MRIとその併用の有用性を世界に先駆けて報告しており、それらの画像情報がさらに蓄積されている。また、肺高血圧症における心臓超音波検査の新たな評価法の検討などを積極的に行い、数多くの論文を発表している。

21世紀になり医療を取り巻く環境はまさに激流のごとく変化している。その中で新たな人材を加えつつ、新しい臨床体制、新しい研究体制を常に精力的に求めて改革中である。一方で時代は変わっても臨床・教育・研究のすべてに全力を注ぐ本教室の良き伝統は長い期間にわたり引き継がれてきた。今後も西村教授を中心に新たな人材が集い、世界に向けて常に情報を発信し続ける精鋭の集団でありたい。

(文責 鈴木 雅)



集合写真

「北大セミナー in 北見」を担当して

有 川 二 郎 (ありかわ じろう) 病原微生物学分野

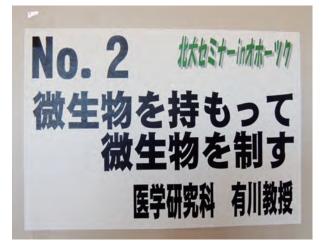
北海道大学アドミッションセンターでは、入学者の選抜に関する業務に加え、オープンキャンパスや全国各地での北大進学相談会の開催等、様々な活動を行っています。今回、10月12日、アドミッションセンター主催で、「北大セミナー in 北見」が北見北斗高校で開催され、医学研究科のアドミッション実施部会から私が参加し模擬授業を実施して来ましたので概略をご報告します。北見までJRで約4時間半、当日午後2時からの授業のため、また、昨今のJR北海道のダイヤの乱れも心配されることから、前泊と後泊をする二泊三日の旅?になりました。

今回の「北大セミナー in 北見」は、北見北斗高校の 先生方、オホーツク教育局、道高校PTA連合会北見支 部のご協力と後援をいただいて実施したものです。北 見北斗高校からの案内には、「オホーツク教育局、道高 校PTA連合会北見支部後援。7つの模擬授業の中から2 つを選択して受講出来る。前後して、入試説明と個別相 談の機会を設ける。高校生には大学は面白いと身近に、 保護者には子供と進路を考えるきっかけにしていただ き、一般の方の参加も歓迎します。」とあります。私の 他に、経済学、教育学、薬学、歯学、獣医学、および工 学研究科の合計7名がそれぞれの専門分野からの授業を 行いました。私は当初、「微生物と人獣共通感染症」と いう固いタイトルにしていたのですが、アドミッション センターからの提案で、もう少し、親しみやすく、とい うことで「微生物をもって微生物を制す」という分かり やすいタイトルに変更の提案があり、変更しました。他 の先生方のタイトルも、「正しい選択をするための経済 学(経済学)、「もしも大学入試がなかったら」(教育学)、 「全くことなる病気なのに原因が同じ?」(薬学)、「口は 健康のもと」(歯学)、「毒と薬の狭間でどう生き抜くか」 (獣医学)、「超小型が切り拓く大きな未来」(工学)など、 親しみをもってもらうためにアイディアをこらしたタイ トルばかりでした。約150名が参加し、1クラス30人程 度の高校生にそれぞれ1時間の授業を2回繰り返して行 いました。全く同じ授業を続けて2回繰り返すのは初め てで、2回目には知らず知らずのうちに話す内容が増え てしまい、これを調整するのが結構負担でした。しかし、 私たちが中学や高校の時は、同じ先生が各学年の複数の クラスに同じ授業をされていたのですから、大変だった のだろうな、と今頃になって気がつきました。私は細菌 やウイルスの基本的な性質の説明から始め、最後に感染 症対策の重要性について触れました。専門的なことを、 興味を持ってもらうように、分かりやすく説明すること の難しさを再確認しました。今後の学部での講義の参考 にもなる得難い経験でした。私の授業内容に対してだけ

でなく、大学で(北大で)勉強することに夢をもってもらえたら、大変にうれしいです。何か元気をもらって帰ってきました。

今週の目標、掃除当番表等が貼り出されている教室は 懐かしく、まさしく高校の教室です。目を輝かせて私の 授業を聞いてくれる制服の高校生の前で、少し気恥ずか しい気持ちをもちながら講義をするのは本当に新鮮な気 持ちでした。また、授業のあと質問に来て、医学部を受 験したいのです、と最後に恥ずかしそうに言った女子。 頑張ってね。

授業終了後は、北大と北斗高校の先生方を中心に、懇親会が開かれ、親交を深めました。翌日、再び北見から札幌までJRに乗って戻りました。車窓から、紅葉が始まっている木々や流れる風景を見ながら、あっという間の3日間を思い出していました。北斗高校や関連の関係者の方々また、北大アドミッションセンターの皆さんのお世話になりました。ありがとうございました。



あれ、タイトルが少し違います。



授業風景

第10回日本核医学会研究奨励賞 最優秀賞を受賞して

平 田 健 司 (ひらた けんじ) Postdoctoral Fellow

Department of Molecular and Medical Pharmacology David Geffen School of Medicine at UCLA



本賞は応募者の中から書類でファイナリスト3人が選考され、学会中に講演を行って1位が決定されます。私の論文はインパクトファクター5.1で、他の2人は6と9でしたから、講演前の段階で最下位でした。今回はプレゼンだけで逆転して1位を獲得する

という貴重な体験をしましたので、僭越ながら、これからいろいろな賞に応募する若い研究者たちへのメッセージを残したいと思います。

今回私は、スライドの作り方を普通の学会発表とは変えました。審査員の重鎮たちに興味を持ってもらうことが最重要と考え、背景の部分を丁寧に話し、約1/4の時間を使いました。方法の説明はさらっと流し(普通の学会ではNGかもしれません)て、結果のスライドもできるだけ簡潔に、表1枚とグラフ1枚にまとめました。考察では、この論文の新規性をしっかり説明し、また従来の研究でわかっていることを図示して、図中に今回の知見を書き入れました。そして、今回の研究がどのように

医学・医療に貢献できるかを、夢を含めながら語りました

このようなプレゼン構成にしましたが、発表の練習にも力を入れました。日本語でのプレゼンとはいえ5回は練習しました。制限時間が12分だったので練習では「ゆっくり話して11分」を目指してスライドを減らす方向で調整しました。本番では、興奮してアドリブでいろいろ口走るため、少し長くなる傾向にあります。結果的に、本番を11分59秒で終えることができました。

多くの実験・解析を行って多くの結果を出した研究者が、結果のスライドを何枚も出したくなる気持ちは十分わかります。しかし、それは聴衆の理解を妨げます。むしろ最も重要な結果だけをしっかり時間をかけて説明するほうが、結果的に聴衆に伝わると思います。研究は自分の努力だけで達成出来るものではなく、研究費や他人の時間、家族の協力があるわけですから、研究成果をアピールするのは義務のようなものだと思います。賞を取りたいから研究するというのは本末転倒ですが、研究結果が出たならば、論文を書くのはもちろん、プレゼン準備にも時間をかけてわかりやすく人に伝える……それでやっと研究の完成と言えるのではないでしょうか。



研究室の仲間と

北海道大学 サステナビリティウィーク2013関連行事 「少子高齢社会における健康 ~持続可能な発展に向けて~」実施報告

大林 由 英 (おおばやし よしひで) 国際保健医学分野 助教

我々は、国際保健医療研究に関する学生・若手研究者の国際連携の推進を目的として、2009年、大学間協定校交流事業の一環としてデラサル (フィリピン)・デリー(インド)・ジュネーブ (スイス)・ハワイ・テキサス (米国)・マヒドン (タイ)・ペラデニヤ (スリランカ)・ソウル (韓国) の各協定校の研究者と共に札幌において会議を行った。これを機に「Consortium for Global Health Research, Education and Training」が設立された。以後、札幌、ペラデニヤ、ソウル等で定期的に会議を開催するとともに、学生交流や共同研究等を実施している。

今回のシンポジウム開催にあたっては、医学研究科主催によるサステナビリティウィーク関連行事として本コンソーシアムメンバー校の研究者を招聘、「少子高齢社会における健康」というタイトルでの国際研究シンポジウムを開催した。 本年は、コンソーシアム参加大学に加えて、フィンランドのラップランド大学やオウル大学からの参加を交えた会議となった。シンポジウムでは、国内外の9人の専門家が、第一部「高齢社会における関心事項」、第二部「持続可能な高齢社会に向けた課題」

に分かれ、公衆衛生学的観点から、自国の高齢社会の現 状を踏まえて講演・討論を行った。

主なコンソーシアムからの参加者に加え、本学の学生、職員、一般市民など40人の参加者による本会議では、講演ごとに会場からの質疑に基づく活発な意見交換が行なわれた。各国が直面する高齢社会における健康の諸課題に関して、学際的かつ国際的な討論は今後の研究交流や国際共同研究の推進などによって更に成果を実らせていけると考えている。今後も、協定校との連携強化、若手研究者育成、ならびに公衆衛生の啓発に努めるべく、シンポジウムの開催など継続することが重要と認識し、このコンソーシアム活動を位置づけている。

本年、日本政府は第五回アフリカ開発会議の開催などを契機として、国際保健外交戦略を世界に示し、日本における保健医療研究の知見の蓄積をさらに積極的に国際貢献へ寄与させることを打ち出した。我々のコンソーシアム活動も保健医療研究活動の社会還元・国際協力をいっそう図り、発展させていくよう努めたいと考えている。



グループ写真

各研究のホームページ掲載内容はこちらから http://www.hokudai.ac.jp/?lid=3

小脳による時間情報処理のメカニズムを解明 大前 彰吾¹、植松 明子²、田中 真樹³

- 1. 神経生理学分野 元学振特別研究員(現ペンシルベニア大学心理学部)
- 2. 神経生理学分野 博士課程1年 (MD-PhDコース)
- 3. 神経生理学分野 教授

次に起こる出来事のタイミングを予測して準備をしたり、楽曲のリズムの乱れに瞬時に気づいたり、普段、私たちの脳は時間を正確に測っています。時間の長さを直接モニターする感覚器はないため、時間情報は脳内で作りだされる必要があります。近年、運動制御に重要な役割を果たしている小脳や大脳基底核が、運動を伴わないリズム感覚や時間の長さの判断などにも関与することが示唆されています。今回、私たちは小脳半球の出力部である小脳歯状核のニューロンが繰り返し刺激の時間間隔をコードしており、この情報が次の一拍のタイミング予測に用いられていることを明らかにしました。

実験では視聴覚刺激を一定間隔で繰り返し提示し、そ れが急に欠落したときに眼を動かすようにサルを訓練しま した (欠落オドボール課題、下図)。課題遂行中の小脳核 の単一ニューロン活動を調べたところ、刺激が繰り返され るに従って神経応答が増大し、その大きさは刺激の提示 間隔に比例していることが明らかとなりました。これは、 感覚系でよく知られている「感覚順応」とは逆の新規な 現象です。また、記録部位に抑制性伝達物質GABAの作 動薬を微量投与して神経活動を抑えたところ、刺激欠落 の検出が遅れました。これらのことは小脳核ニューロンが 刺激リズムに従って応答性を変化させ、その情報が次の 刺激のタイミング予測に用いられていることを示していま す。このように、本研究ではリズム知覚の神経機構の一 端を細胞レベルで初めて解明しました。その成果は小脳 疾患の病態理解に役立つとともに、将来的にはその診断 法や治療の評価法の開発につながるものと期待されます。

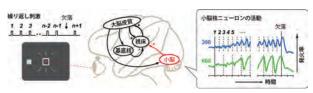


図 欠落オドボール課題

【掲載論文】

Ohmae S, Uematsu A, Tanaka M. "Temporally specific sensory signals for the detection of stimulus omission in the primate deep cerebellar nuclei." **J. Neurosci.**, 33: 15518-15532, 2013.

外来因子の取り込みを制御するシグナル伝 達機構を解明

- ウイルスの宿主侵入機構研究への展開-

大場 雄介 細胞生理学分野 教授

私たちの研究室では、細胞内シグナル伝達機構を蛍光バイオイメージングで解明するプロジェクトに精力的に取り組んで参りました。今回、細胞がある種の外来因子に暴露されると細胞内でカルシウムイオンの濃度上昇が生じること、カルシウムシグナルの発動を介してエンドサイトーシスを亢進し、外来因子を積極的に取り込む機構が存在することを発見し、Nature Communications 誌に発表しました。

これまでに、細胞内の低分子量GTP結合タンパク質Rasとその下流因子phosphoinositide 3-kinase (PI3K)の活性化によってエンドサイトーシスを亢進し、外来因子を積極的に細胞内に取り込む機構が存在することを報告しています (Fujioka et al., PLoS ONE 2011)。今回、FRETバイオセンサーを用いた観察により、このシグナルの上流因子としてカルシウムを同定しました (図1)。

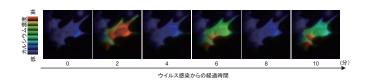


図 1 ウイルス感染による細胞内カルシウムイオン濃度の一過性上昇

また、細胞が外来因子のひとつであるインフルエンザウイルスに暴露されると、カルシウム濃度上昇に引き続き、低分子量GTP結合タンパク質RhoA活性化→カルシウム濃度上昇というポジティブフィードバック経路が活性化されることが明らかになりました。この循環したシグナルは、Ras-PI3Kシグナルに加えて複数のエンドサイトーシス経路の制御にも関与するため(図2)、その抑制はウイルス粒子の取り込みと感染をほぼ完全に阻害しました。つまり、インフルエンザは細胞侵入プロセスにおいて、宿主細胞側のカルシウム動員を介して細胞が本来持つ機能(この場合エンドサイトーシスの亢進)を利用して細胞に侵入する(取り込まれる)という巧妙な感染戦略を持っているようです。

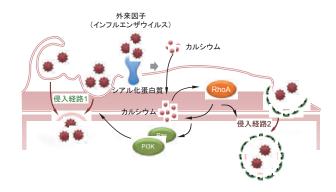


図2 今回明らかになった宿主細胞の外来因子の取り込み機構

本研究のように、ウイルスを用いて細胞の機能を探求することにより、従前は明らかではなかった細胞に潜むメカニズムの解明が加速するものと期待されます。一方、インフルエンザウイルスが宿主細胞のカルシウム濃度を上昇させるメカニズムを解明し、ウイルス感染対策への基盤構築につながる研究への発展も期待されます。

【掲載論文】

Fujioka Y, Tsuda M, Nanbo A, Hattori T, Sasaki J, Sasaki T, Miyazaki T, Ohba Y. A Ca(2+)-dependent signalling circuit regulates influenza A virus internalization and infection. **Nat. Commun.**, 4, 2763, 2013

(研究発表プレスリリース掲載日 2013.11.14)

自然免疫の活性化に関与するタンパク質の 立体構造解明

- ウイルスの宿主侵入機構研究への展開-

舟 見 健 児 免疫学分野 特任助教

自然免疫は、細菌やウイルス感染に対して素早い応答 を可能とする生体防御システムとして近年研究が進めら れています。微生物構成成分を認識するパターン認識受 容体は、自然免疫の活性化に重要な分子です。パターン 認識レセプターの一種である Toll-like receptor 4 (TLR4) は、大腸菌等に含まれるリポ多糖を認識します。TLR4 がリポ多糖を捕まえると、細胞内部で4種類のアダプ ター分子を介して自然免疫を活性化します。Myd88と Mal/TIRAPは、細胞表面でリポ多糖を認識したTLR4に よって活性化され、炎症反応に関与します。これに対し て、本研究室において発見されたTICAM-1(別名TRIF) とTICAM-2 (別名TRAM) は、細胞内エンドソームで リポ多糖を認識したTLR4によって活性化され、 $IFN-\beta$ 産生を誘導し微生物の排除に関与します(図1)。この 2種の経路をそれぞれ特異的に制御することで、自然 免疫の適切な活性化を調節し、抗がん作用や抗感染症 作用を誘導することが出来ると期待されます。TLR4に

よるTICAM-1とTICAM-2の活性化には、TICAM-1と TICAM-2の会合が重要です。この会合には、両分子に 存在するTIRドメインと呼ばれる構造が重要です。

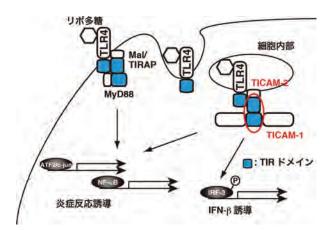


図1 リポ多糖による免疫反応の誘導 図中の赤線で囲んだ部位について構造を解析した

今回私たちは、稲垣冬彦博士(北海道大学大学院生命科学院)との共同研究で、TICAM-1とTICAM-2のTIRドメインについて、それぞれ立体構造を明らかにしました。また、得られた立体構造の情報を用いてコンピューターによる構造の予測を行ない、TICAM-1とTICAM-2の結合が分子のどのアミノ酸を介して起きているかを決定しました。この結果、2分子のTICAM-2と1分子のTICAM-1からなる3分子複合体がシグナル伝達に重要であることがわかりました(図2)。今回得られた成果は、抗がん免疫や抗微生物免疫の活性化を効率よく引き起こす薬剤のデザインへの応用が期待できます。

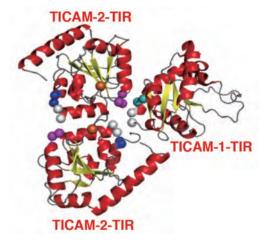


図2 今回明らかにしたタンパク質の立体構造

【掲載論文】

*Enokizono, Y., *Kumeta, H., *Funami, K., Horiuchi, M., Sarmiento, J., Yamashita, K., Standley, D.M., Matsumoto, M., Seya, T., and Inagaki, F. (2013). Structures and interface mapping of the TIR domain-containing adaptor molecules involved in interferon signaling. Proc Natl Acad Sci USA 110, 19908-19913. (*equally contributed)

(研究発表プレスリリース掲載日 2013.12.16)

●受賞関係

医学研究科・医学部医学科から受賞されました。 平成25年9月から11月までを掲載します。

1. 2013/11/10

山仲勇二郎 (細胞生理学分野助教) 第20回日本時間生物学会学術大会優秀ポスター 賞受賞

研究題目:異なる照明条件下での身体運動がヒト 概日リズムの位相変化に与える影響

2. 2013/11/08

広瀬 貴行(北海道大学病院泌尿器科医員) 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会 Young Endurologist Award 受賞

研究題目:鏡視下ドナー腎採取術の臨床的検討

3. 2013/11/02

森川 守 (産科・生殖医学分野講師) 日本糖尿病・妊娠学会 研究奨励賞 (大森賞) 受賞

4. 2013/10/18

加藤 徳雄(北海道大学病院放射線治療科助教) 日本放射線腫瘍学会 梅垣賞受賞

研究題目: A New Brain Positron Emission
Tomography Scanner with Semiconductor
Detectors for Target Volume Delineation
and Radiotherapy Treatment Planning in
Patients with Nasopharyngeal Carcinoma

5. 2013/10/12

宮田 遥(北海道大学病院泌尿器科医員) 第390回日本泌尿器科学会北海道地方会賞受賞 研究題目:有転移腎癌に対する転移巣切除術の意義

6. 2013/10/11

森川俊太郎 (小児科学分野博士課程学生) 第47回日本小児内分泌学会学術集会優秀演題賞受賞 研究題目:IGSF1異常による中枢性甲状腺機能低 下症の病態の確立

7. 2013/09/28

玉木 長良(核医学分野教授)

平成25年度北海道医師会賞・北海道知事賞受賞 研究題目:ポジトロン断層撮影法(PET)を用いた 分子イメージング法の開発と臨床応用 8. 2013/09/28

西村 正治 (呼吸器内科学分野教授) 平成25年度北海道医師会賞・北海道知事賞受賞 研究題目:慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の病因・ 病態・治療に関する統合的研究

9. 2013/09/25

瓜田 淳(北海道大学病院整形外科助教) 第19回日本軟骨代謝学会賞受賞

研究題目: Alterations of high-mannose type
N-glycosylation in human and mouse
osteoarthritis cartilage

10. 2013/09/25

清藤 直樹(北海道大学病院整形外科医員) 第19回日本軟骨代謝学会賞受賞

研究題目: Interruption of glycosphingolipid synthesis enhances osteoarthritis development in mice

11. 2013/09/21

管野由岐子(腎泌尿器外科学分野博士課程学生) 第20回日本排尿機能学会河邉賞受賞

12. 2013/09/12

浅香 正博(がん予防内科学講座特任教授) 欧州ヘリコバクター会議 マーシャル・ウォレン賞受賞

13. 2013/09/11

松嶋 藻乃 (神経生理学分野特任助教) 2013年度ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞受賞

14. 2013/09/08

齋藤 久泰(脳神経外科学分野博士課程学生) 15th WFNS(世界脳神経外科会議)

Young Neurosurgeons Award 受賞

研究題目: Bone Marrow Stromal Cells Enhance the Recovery of Peri-infarct Neuronal Integrity by Replacing the Damaged Neurons - A Serial [123] I-Iomazenil SPECT Study

15. 2013/09/07

田邉 起(北海道大学病院泌尿器科医員) 第8回日本移植学会賞受賞

研究題目: Endothelial chimerism after ABOincompatible kidney transplantation

勝沼栄明衆議院議員の医学部長、病院長、副学長表敬訪問

田中 伸哉 (たなか しんや) 北大医学部同窓会新聞編集委員長 腫瘍病理学分野 教授

2013年10月8日、第47回衆議院議員選挙(2012年12月16日)において衆議院議員に当選された勝沼栄明先生(医学部76期、2000年卒業)が医学部長、病院長、副学長を表敬訪問されました。

勝沼先生は横浜出身で、北大医学部時代は4年間公式 テニス部に所属。卒業後は形成外科に進み形成外科専 門医です。今回医学部同窓会新聞編集委員会でインタ ビュー記事を企画することとなり、形成外科の山本教授 を介して御依頼したところ、お越しいただけることで今 回の表敬訪問となりました。

まずは、医学研究科長室に笠原医学部長を訪問し、現在の勝沼先生の政治活動の現状報告が行われました。笠原医学部長からは、北大医学部の95年の歴史の中で、卒業生で衆議院議員に当選したのは、箕輪登先生(医専4期)以来なので、大いに頑張って欲しいとエールが送られました。また勝沼先生からは、医学を一通り学んだ後の6年次において、あらためて患者診療に向き合う哲学の講義の重要性が提言されました。

続いて北大病院院長室に寳金病院長を表敬訪問し、寳金院長からは、北大病院の現状と大学病院の将来のあり方の説明を受け、勝沼議員からは社会保障制度改革の立場から、医学部・病院がよりよく発展するように尽力していきたいと発言がありました。

最後に、スポーツ医学分野教授室に安田理事・副学長を表敬訪問し、政治家を目指した経緯、当選の経緯などについて報告され、安田理事・副学長からは、北大の代表の1人として中央官庁との緊密な連携をはかる中、政

治の重要性が増してきているので、医師の立場から多い に活躍してもらいたい旨激励がありました。

引き続き、腫瘍病理学分野の教授室で同窓会新聞のインタビューを行い、先生の政治活動の主なテーマである、社会保障制度改革と安全保障について語っていただきました(北大医学部同窓会新聞147号)。

その後、医療の現状の視察として、北大医学部腫瘍病理学分野で行われている、遠隔病理診断システムの視察がおこなわれました。実際に稚内市立病院と第2病理を遠隔通信でリンクしながら大腸癌の診断を行っている場面に立ち会ってもらいました。現在北海道の病理専門医は約100名程度で、旭川以北には常勤医はいないのが現



寳金病院長表敬訪問



笠原医学部長表敬訪問



安田副学長表敬訪問

状で、遠隔診断システムが術中迅速診断などで大きく貢献しています。

現在、北海道の支援を受けて、地域医療再生計画のもと病理学会北海道支部(笠原正典支部長)に遠隔病理ネットワークの構築の助成が行われていますが、第2病理を中心とするネットワーク診断もこれと協調して行われるもので、勝沼議員もモニターに映し出される癌の映像とリアルタイムの病理診断に見入っていました。

その後、引き続き腫瘍病理学分野の図書室に集まった

医学部学生、佐藤行真君(6年生)、杉野弘和君(5年生)、 寺井小百合さん(5年生)、吉野光一郎君(4年生)、杢 里花さん(3年生)の6名との対話が行われ、勝沼先生 からは、自分も学生時代は政治には疎かったが、あると き思い立って行動した。挫折もあったが運良く当選でき たので、皆さんも勇気と覚悟をもって自らの信じる道を 進んで欲しいと、薫陶いただきました。学生たちも目の 前にいる議員の先生の言葉に目を輝かせながらうなずい ていました。



遠隔病理診断視察。腫瘍病理学分野と稚内市立病院との間での 大腸癌のリアルタイム診断の実演を視察する勝沼議員。遠隔病 理は病理医不足に対する有効な手段となることを実感していた。



医学部学生さんと対話を終えての記念撮影



医学部学生に薫陶を行う勝沼議員



最終講義のお知らせ

平成26年3月退職の教授の最終講義を次のとおり開講します。

・野々村克也 特任教授(腎泌尿器外科学分野)場 所:医学部学友会館「フラテ」ホール題 目:「性分化疾患を拓く」

なお、退職記念式典は3月13日(木)の教授会 終了後に医学部学友会館「フラテ」ホールにて実 施します。

新規寄附講座設置のお知らせ

平成26年1月1日付けでスポーツ先端治療開発 医学講座が発足しました。

新任教授特別セミナーについて

医学研究科では、平成24年度より、新任の教授が現状と抱負および 研究内容等を講演するセミナーを開催しています。

- ・第14回 廣瀬 哲郎 教授(遺伝子病制御研究所・RNA生体機能分野) 「ゲノムの暗黒物質はどこまで明らかになったか?」 平成25年11月26日(火)開催
- ・第15回 橋野 聡 教授(健康管理医学分野) 「治療医学から予防医学へ」 平成25年11月28日(木)開催



廣瀬教授



橋野教授

消防訓練の実施

医学研究科・医学部、遺伝子病制御研究所、アイソトープ総合センター合同で10月22日(火)11時55分、北棟1階の医化学分野 実験室1から出火したとの想定で、消防訓練を実施しました。

出火時の初動体制を確立するために、各行動の中心となる自衛消防班が直ちに活動し、出火場所に対応して各職務分担の任務〈通報連絡・避難誘導・消火・防護措置等〉を行い、被害を最小限にくい止め

る訓練を実施しました。

終りには笠原研究科長から日頃の防火に対する 心構えについて話があり、参加した約150名の教職 員・学生は訓練の重要性と防災意識を改めて見直し ました。

総合訓練に続いて、消火器を使った消火訓練を防 災設備業者指導のもと実施し使用方法について理解を 深め、一連の消防訓練を無事に終える事ができました。

第17回(平成25年度)医局対抗サッカー大会

本年度の医局対抗サッカー大会は11月16日、23日、24日に予選リーグを、12月7日に決勝トーナメントを、札幌市西区の農試公園屋内競技場(ツインキャップ)を舞台に行われました。今年度も13チームの参加で大会は行われました。

予選Aブロックは1勝1分の循環器内科が1位、2 位が第1外科で決勝トーナメント進出、第2外科が 3位でした。Bブロックでは、麻酔科が2勝で1位、 1勝1敗の眼科が2位で決勝トーナメント進出を決 めました。Cブロックは、現在2連覇中の整形外科 と上位進出経験のある泌尿器科が同居するグループ になりましたが、整形外科1位、泌尿器科2位で決 勝トーナメント進出、3位は放射線科、4位はリハ ビリ科でした。Dブロックは第1内科と第2内科が ともに1勝1分でしたが総得点の差で第2内科が競 り勝ち1位、第1内科が2位でした。

決勝トーナメント1回戦は、循環器内科vs眼科、麻酔科vs第1外科、整形外科vs第1内科、第2内科vs泌尿器科(人数が揃わず残念ながら棄権)の組み合わせで行われました。Aブロック1位の循環器内科は眼科を6対0で勝利。逆側では麻酔科と第1外科の戦いでしたが、第1外科が4対0で勝ち、準決勝は予選Aグループの再戦カードとなりました。

整形外科vs第1内科は3対1で整形外科が勝利、第2内科は不戦勝でそのまま準決勝へ自動進出しました。循環器内科と第1外科の準決勝は初の決勝進出を狙う循環器内科に対し、第1外科が予選リーグの雪辱を晴らし7対3で決勝へ勝ち上がりました。準決勝のもう1試合は、整形外科が第2内科に3対1と競り勝ち決勝進出を決めました。3位決定戦は、第1内科が疲労の色濃い循環器内科に勝利し3位を決めました。

3連覇を狙う整形外科と第1外科の対戦となった 決勝戦は、追いつ追われつの接戦となり後半ロスタ イムに第1外科が劇的な勝ち越し点を奪い、3対2 で勝利し久しぶりの優勝を決めました。

運営や審判業務を手伝ってくれた、北大医学部 サッカー部員の皆さんに感謝し、この場を借りてお 礼申し上げます。参加チームが例年より少なかった ことと、決勝トーナメントで辞退チームが出てしまっ たことが残念でした。本年度の反省を生かし、大会 開催のアナウンスを早くし、多くの医局、そして参 加者が参加できるような大会にしたいと思います。

幹事 整形外科 (文責 整形外科 菱村 亮介)



優勝した第一外科



準優勝の整形外科

平成26年度 医学研究科 (博士後期・修士後期) 学生募集出願状況

平成26年度医学研究科博士課程後期募集及び修士課程後期募集の結果、出願者数は次の通りでした。

- ・博士後期募集 61名 (男45名、女16名)
- 修士後期募集 9名(男5名、女4名)

平成26年度 科学研究費補助金応募状況

研究種目	新規申請	継続申請
柳光性日 	件数	件数
特別推進研究	0	0
新学術領域研究 (研究領域提案型·計画研究)	3	3
新学術領域研究 (研究領域提案型·公募研究)	20	3
基盤研究(S)	2	1
基盤研究(A)(一般)	9	2
基盤研究(A)(海外学術調査)	0	0
基盤研究(B)(一般)	22	16
基盤研究(B)(海外学術調査)	1	0
基盤研究(B)(特設分野研究)	1	0
基盤研究(C)	57	46
基盤研究(C)(特設分野研究)	1	0
挑戦的萌芽研究	44	14
若手研究(S) ※1		0
若手研究(A)	3	2
若手研究(B)	28	17
研究活動スタート支援 ※2		0
合 計	191	104

※1 平成22年度より新規申請の受付を停止※2 新規申請の受付開始は、平成26年3月予定

(参考:平成25年度新規申請 7件)

平成25年度 財団等の研究助成採択状況

財団法人等名	種別	研究者名	交付金
公益財団法人 てんかん治療研究振興財団	海外留学助成	中島 翠	250,000
公益財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団	研究交流助成金	大西 俊介	200,000
公益財団法人 小児医学研究振興財団	日本イーライリリー海外留学フェローシップ	江川 潔	1,800,000
公益財団法人 杉野目記念会	海外研修助成	加藤 容崇	100,000
公益則四伝人 杉野日記心云	講演会開催協力(3名分)	豊嶋 崇徳	150,000
		吉岡 充弘	2,000,000
		玉木 長良	2,000,000
公益財団法人 喫煙科学研究財団	研究助成	田中 真樹	2,000,000
		三輪 聡一	2,000,000
		秋田 弘俊	2,000,000
公益信託 西宮機能系基礎医学研究助成基金	助成金	吉田 隆行	300,000
公益財団法人 三菱財団	社会福祉事業・研究助成	鵜川 重和	500,000
公益信託 三島済一記念眼科研究国際交流基金	国内研究助成	神田 敦宏	1,000,000
財団法人 三井生命厚生事業団	医学研究助成	吉永 恵一郎	1,000,000
	特定研究助成	田中 真樹	48,000,000
	医学系研究奨励継続助成	須藤 英毅	3,000,000
公益財団法人 武田科学振興財団		神田 敦宏	3,000,000
A 盆	ビジョナリーリサーチ助成	外丸 詩野	2,000,000
	E 丛 无 TT	吉田 隆行	2,000,000
	医学系研究奨励	宮崎 太輔	2,000,000

		吉田 隆行	700,000
公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団	研究助成	榎木 亮介	1,000,000
		東 恒仁	500,000
	 海外等研究者招へい助成	西村 正治	200,000
	7,7,7	本間 さと	200,000
	国際学会等助成	寺沢 浩一	300,000
		西村 正治	300,000
 公益財団法人 伊藤医薬学術交流財団		榎木 亮介	200,000
		安藤亮	200,000
	海外学会等出席研究交流助成	國松 淳	200,000
		大西 礼造	200,000
		保岡 啓子	150,000
	海外留学研究交流助成	和田 秀之	250,000
ノボノルディスク成長・発達研究賞事務局	ノボノルディスク成長・発達研究賞2013	中村 明枝	1,000,000
		福原 淳一	500,000
公益財団法人 北海道大学クラーク記念財団	博士後期課程在学生研究助成	豊永 愛恋	500,000
		西村 真智子	500,000
公益財団法人 薬理研究会	第15回 研究助成	堀之内 孝広	1,000,000
公益信託 西宮機能系基礎医学研究助成基金	研究助成	吉田 隆行	300,000
北海道大学医学部同窓会	フラテ研究奨励賞	神田 敦宏	500,000
公益財団法人 東レ科学振興会	科学技術研究助成	及川 司	14,000,000
公益財団法人 中島記念国際交流財団	日本人若手研究者研究助成金	及川 司	5,000,000
日本イーライリリー株式会社	リリー助成金	田島 敏広	1,000,000
ファイザー株式会社	アカデミック・コントリビューション	石田 晋	2,000,000
公益財団法人 内藤記念科学振興財団	科学奨励金・研究助成	大場雄介	3,000,000
公益財団法人 医療科学研究所	研究助成金	坂内 聖	500,000
		大場雄介	400,000
公益財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団	基礎医学医療研究助成金	小野寺 康仁	400,000
		岩崎 倫政	1,000,000
公益財団法人 寿原記念財団	研究助成	浜田 俊幸	1,000,000
	調査研究助成	寺田 晃士	1,000,000
		清水宏	1,000,000
		筒井 裕之	2,000,000
		豊嶋 崇徳	500,000
		岩崎 倫政	1,000,000
 ファイザー株式会社	 アカデミック・コントリビューション	丸藤哲	500,000
		西村 正治	1,000,000
		武富 紹信	1,000,000
		野々村 克也	1,000,000
		寳金 清博	2,000,000
 公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団		- III	=,,,,,,,,,
	留学補助金	東 正大	500 000
	留学補助金	東 正大	500,000
公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター (ノーステック財団)	留学補助金 財団理事長賞 (研究奨励金)	東 正大 吉田 隆行	300,000
公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター			
公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター (ノーステック財団)	財団理事長賞(研究奨励金)	吉田 隆行	300,000
公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター (ノーステック財団) 公益財団法人 ファイザーヘルスリサーチ振興財団	財団理事長賞(研究奨励金) 研究助成(国内共同研究-39歳以下)	吉田 隆行 鵜川 重和	300,000
公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター (ノーステック財団) 公益財団法人 ファイザーヘルスリサーチ振興財団 公益財団法人 精神・神経科学振興財団	財団理事長賞(研究奨励金) 研究助成(国内共同研究-39歳以下) 睡眠健康推進機構学術研究助成	吉田 隆行 鵜川 重和 小野 大輔	300,000 1,000,000 500,000
公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター (ノーステック財団) 公益財団法人 ファイザーヘルスリサーチ振興財団 公益財団法人 精神・神経科学振興財団 公益財団法人 明治安田厚生事業団	財団理事長賞(研究奨励金) 研究助成(国内共同研究-39歳以下) 睡眠健康推進機構学術研究助成 若手研究者のための健康科学研究助成	吉田 隆行 鵜川 重和 小野 大輔 森永 幸子	300,000 1,000,000 500,000 500,000
公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター (ノーステック財団) 公益財団法人 ファイザーヘルスリサーチ振興財団 公益財団法人 精神・神経科学振興財団 公益財団法人 明治安田厚生事業団 バイエル薬品株式会社	財団理事長賞(研究奨励金) 研究助成(国内共同研究-39歳以下) 睡眠健康推進機構学術研究助成 若手研究者のための健康科学研究助成 バイエル薬品研究助成	吉田 隆行 鵜川 重和 小野 大輔 森永 幸子 筒井 裕之	300,000 1,000,000 500,000 500,000 1,000,000

平成25年11月29日までの採択判明分

平成25年度末 教務関係行事予定表

(医学研究科・医学部医学科)

月	H	曜	行 事 等	
12	3	火	修士課程後期願書受付期間【~12月9日(月)】	
	6	金	選択実習説明会(5年次(新6年次)対象)(17:00~臨床大講堂)	
	12	木	教授会	
	13	金	課程博士公開発表会 [新カリキュラム] (12月修了予定) 公開発表会	
	23	月	5年次冬季休業【~1月7日(火)】	
	25	水	博士・修士学位記授与日	
	26	木	1年次冬期休業【~1月3日(金)】	
	27	金	2~4年次冬期休業【~1月6日(月)】	
1	6	月	学部卒業者(最終)成績入力締切	
			1~4年次授業再開	
			博士課程 [旧カリキュラム] (3月修了予定) 論文提出期限	
			博士課程3月修了予定者成績締切	
	8	水	5年次授業再開	
	9	木	教授会	
			成績確認期間(学部(卒業者))【~15日(水)】	
	10	金	高桑榮松奨学基金募集期限	
	15	水	修士課程後期試験・博士課程後期入学試験・語学試験(学友会館「フラテ」1階:大研修室)	
	17	金	修士課程(3月修了予定)修士論文提出期限	
			修士課程3月修了予定者成績締切	
	18	土	平成26年度大学入試センター試験 高等教育推進機構S会場 (S棟) 副担当《主担当:獣医学部》	
	19	日	十四、20十次八十八四 ピンノ 四碳 同寺教育1世歴 夜博3 云物 (31米) 町担日 (土12日・歌区十印//	
	22	水	医学科教務委員会 (卒業判定)	
	27	月	課程博士[新カリキュラム](3月修了予定)最終審査・審査会【~2月7日(金)】	
			課程博士 [旧カリキュラム] (3月修了予定) 論文公開発表【~1月31日 (金)】	
	29	水	4年次「共用試験CBT」	
	30	木	4年次「診断学実習」開始【~2月13日(木)】	
	31	金	2年次医学専門科目授業終了	
			学部シラバス入力(科目責任教員)期限	
2	3	月	第108回医師国家試験受験票及び医師免許申請書交付【~6日(木)】	
	4	火	全学教育授業終了	
	5	水	修士課程論文公開発表【~12日(水)】	
	6	木	教授会(学部卒業者の決定,修士第二次,博士課程後期入学試験合格者決定,語学試験合格者決定) 教授会終了後,奨学基金委員会	
	7	金	課程博士[新カリキュラム]学位審査中間審査学生キーワード調書締切	
	8	土	第108回医師国家試験【~10日 (月)】	
	10	月	全学教育科目成績入力締切	
	12	水	(博士課程二次出願資格審査申請受理期間【~13日(木)】)	
	13	木	修士課程(3月修了予定)学位論文審査結果報告締切	
			博士課程(3月修了予定)学位論文審査結果報告締切	
	14	金	3年次授業終了	
			研究生願書受理期間【~21日(金)】	
	15	土	4年次「共用試験OSCE」	

	2	17	月	学部(4年次)追再試験【~25日(火)及び空きコマ】,4年次授業終了
19 木 平成26年度私雲外国人留学生(学部)人欲第2次題芳試験(小論文・前接)実施 部人共和数巻表目会 部人共和数巻表目会 部人共和数巻表目会 部人共和数巻表目会 部人共和数表表目会 部人共和数表表目表 京本 京本 京本 京本 京本 京本 京本 京				成績確認期間・成績評価申立て期間(全学教育)【~2月18日(火)】
20 木 研究科教務委員会		18	火	(博士課程二次願書受理期間【~21日(金)】)
語床実習カリエンテーション [17:00~学友会館「フラテ」ホール] 及び4年次学友会懇請会 [17:30~学友会館「フラテ」 1時大好修客]		19	水	平成26年度私費外国人留学生(学部)入試第2次選考試験(小論文・面接)実施
18大部移産		20	木	研究科教務委員会
24 月 学部2・3年次 保給) 成績人力補切 25 火 平成28年度本学第2次入学試験(前期日程—日日) 実施 第7試験場(高等教育能達機構S標)主担当《副担当:歐医学部》26 水 平成28年度本学第2次入学試験(前期日程—日日) 実施 第7試験場(高等教育能達機構S標)主担当《副担当》27 本 社大研究科教授会(修士・阿士課程(3月修丁予定)学化論文最終審查,修了認定) 被付金 全党教育科目最福能之《年少》3月5日(水)] 28 金 全党教育科目最福能之《年少》3 月 修士 (二次合む), (平3月5日(水)] 3 3 月 修士 (二次合む), (持士前期、後期入学手被期前【~7日(金)] 学士福人学者(2年次十字期)人学手就期前【~6日(木)] 4 火 (博士提供三次人学学版) 5 水 高姿豪松與学基金授与式 11:30~ 7 企 大学院2年次十学期入人学手練期前【~7日(金)] 10 月 課起博士公開発表会「新り半ュラム」(3月修丁予定)公開発表会(一14日(金)] 12 水 平成26年度本学室2次人学試験(後期日配)実施 第9対験場(高等教育推進機構S標)担当[医学部《保障学科3年攻》] 医学科教務委員会(2・3年次継報相定) 13 木 教授会(2・3年次連級制定) 14 水 教授会(2・3年次連級制定) 15 水 教授会(2・3年次連級制定) 16 本 教育企業(2、2 年次上部級利用) 17 月 4月入学研究生入学下練期間【~20日(水)] 18 火 第1818旧随間国家試験各格名發表(14:00北海道理生局) 26 本 (大学企業経) 27 大 修士・博士課程(6月修丁予定)論文提出財産、(学工学企配伝達式(庭床大課室) 28 本 大学院公学経過(4帳房)・アンドホテル) 29 本 大機工会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会		24 月		
25 火 平成26年度本学第2次入学試験 前期日程一日日) 実施 第7試験場 (高等教育推進機構S棟) 主担当(副担当: 獣医学部) 26 太 平成26年度本学第2次入学試験 (前期日程二日日) 実施 第7試験場 (高等教育推進機構S棟) 担当 [医学部医学科] 27 木 拉太研究科教徒会 (修士・博士課程 (3月修丁予定) 学位論文最終審查, 修了認定) 28 全 全学教育科目成績確定 (正午) 28 金 全学教育科目成績確定 (正午) 4 大 (博士課程二次人学試験) 入学手続期間 【~7日 (金)】 7 金 大学院2学財・通生開展支援日成績確切 10 月 課程博士公院発表会 [新カリキュラム] (3月修丁予定) 公開発表会 【~14日 (金)】 12 木 平成26年度本学第2次人学試験 (後期日報) 実施 第9試験場 (高等教育推進機構S棟) 担当 [医学部《保障学科3市政] 13 木 教授会 (2・3年次進級判定 新5年次臨床実習履修許可制定, 6年次選択実習配属先決定 (博士課程二次入学試験合格者表表) 14 大 教授会 (2・3年次進級判定 所5年次臨床実習履修許可制定, 6年次選択実習配属先決定 (博士課程二次入学試験合格者表表) 15 月 月月入学研究生入学手経期間 【~20日 (木)】 16				学部2・3年次(第1回目)成績入力締切
26 木 平成36年度本学第2次入学試験(前期日程二日日)実施 第7款赎場(高等教育推進機構S棟)担当【医学部医学科】 27 木 拡大研究科教授会(修士・博士課程(3月修丁予定)学位補文最終香金、修丁部定)教授会				学部2・3年次(最終)成績入力締切
27 木 松大研究科教授会 (修士・博士課程 (3月修丁予定) 学位論文最終寄丧,修丁部定) 教授会 成績確認期間 (学部 (2・3年次)) [~3月5日 (水)] 28 金 全学教育科目成績確定 《正午》 29 金 全学教育科目成績確定 《正午》 3 月 修士 (二次含む),博士前期・後期人学手続期間 [~6日 (木)] 子士福人学花 (2年次1学期) 八学手続期間 [~6日 (木)] 4 大 (博士課程二次入学試験) 5 木 高条葉松男学基金授与天 11:30~ 7 金 大学院之学期・途年開講授業科目成績練切 10 月 課程博士公開発表金 [新カリキュラム] (3月修丁予定) 公開発表金 [~14日 (金)] 平成6年度本学第2次人学試験 (後期日程) 実施 第9試験場 (高等教育推准機構5棟) 担当 [医学部《保健学科3専攻》] 医学科教務委員会 (2・3年次連級制定) 13 木 教授会 (2・3年次連級制定) 14 大 教授会会行後、追顧記念式典《学安全館「フラテ」ホール》 17 月 4月入学研究生大学手続期間 [~20日 (木)] 18 大 第108回医師国家試験合格者発表 (14:00北海道摩生局) 20 本 修士・博士課程 (6月修丁予定) 論文提出期限 (「博士課程二次人学予新期間 [~26日 (木)]) 21 2 5年次授業終了 (14:00年) 18:30~学主学位記伝達式(19:15:00~) 18:30~学主学位記伝達式(19:15:00~) 18:30~学主学位記伝達式(19:15:00~) 18:30~学生学位記伝達式(19:15:00~) 18:30~学生学位記伝達式(19:15:00~) 18:30~学生学位記伝達式(19:15:00~) 18:30~学生学校主任会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会		25	火	平成26年度本学第2次入学試験(前期日程一日目)実施 第7試験場(高等教育推進機構S棟)主担当《副担当:獣医学部》
被接会 成績確認期間 (学部 (2・3年次)) 【~3月5日 (水)】 28 金 全学教育科目成績確定 (正午) 3 月 巻土 (二次含む), 博士前期・後期入学手続期間 【~6日 (水)】 学土編入学者 (2年次19学期) 入学手続期間 【~6日 (水)】 (村工課程二次人学試験) 5 水 高条餐於奨学基金授与式 11:30~ 7 金 大学院2学期・通年間講授業科目成績結切 10 月 課程博士公開発表会 (第カリキュラム) (3月修丁予定) 公開発表会 【~14日 (金)】 医学格务路委員会 (2・3年次連級) 医学科务路数量会会 (2・3年次連級) 医学科务路委員会会 (2・3年次連級) 医学科务路委員会会会。 13 木 教授会 (2・3年次連級判定) 13 木 教授会 (2・3年次連級判定) 14 月 4月入学研究业人学手続期間 【~20日 (水)】 18 火 第108回医師国家試験合格者発表 (14:00北海道厚生局) 20 木 修土・博士課程 (6月修丁予定) 論文提出期限 (博士課程二次入学試期間 【~26日 (水)】 21 金 5年次授業終了 (地)		26	水	平成26年度本学第2次入学試験(前期日程二日目)実施 第7試験場(高等教育推進機構S棟)担当【医学部医学科】
成績確認別問(学部(2・3 年次)】 [~3月5日(水)] 28 金 全学教育科目成績確定《正午》 28 金 全学教育科目成績確定《正午》 27 日 (金)] 28 日 (中華) 28 日 (本)] 29 日 (本)] 29 日 (本)] 20 日 (本)] 20 日 (本)] 21 日 (本)] 21 日 (本)] 22 日 (本) 22 日 (本)] 22 日 (本) 23 日 (本)] 24 日 (金)] 27 日 (本) 28 日 (本)] 27 日 (本)] 27 日 (本)] 28 日 (本) 28 日 (本)] 29 日 (本)] 20 日 (本)] 20 日 (本)] 21 日 (本)] 21 日 (本)] 21 日 (本)] 21 日 (本)] 22 日 (本)] 21 日 (本)] 21 日 (本)] 22 日 (本)] 21 日 (本)		27	木	拡大研究科教授会(修士・博士課程(3月修了予定)学位論文最終審査,修了認定)
28 全 全学教育年目成績確定《正午》 27 日 (金)				教授会
3 月 修士(二次会か)、博士前期・後期入学手続期間【~7日(金)】 学士編入学者(2年次1学期) 人学手続期間【~6日(木)】 4 次 (博士課程二次入学試験) 5 水 高桑茶松與学基金授与太 11:30~ 7 金 大学院2学期・通年開講授業科日成績締切 10 月 課程博士公開発表金【新カリキュラム】(3月修了予定)公開発表金【~14日(金)】 12 水 平成26年度本学第2次入学試験(後期日組)実施 第9試験場(高等教育推進機構S棟)担当【医学部《保健学科3市攻》】 医学科教務委員会(2・3年次進級判定) 13 木 教授会(2・3年次進級判定,新5年次臨床実習履修許可判定,6年次選択実習配属先決定(博士課程二次入学試験合格者決定) 数授会終了後、退職記念式典《学女会館「フラテ」ホール》 4 月入学研究生入学手続期間【~20日(木)】 18 次 第108回医師可家試験合格者発表(11:00元海道厚生局) 20 木 修士・博士課程(6月修了予定) 論文提出期限 (博士課程二次入学手続期間【~26日(木)】) 2 全 5年次授業終了 10:00~学位記授与式(博士・修士・学士)、13:30~学士学位記伝達式(管友会館「フラテ」ホール) 板15:00~学社学位記伝達大路了後>~修士・博士学位記伝達式(臨床大講堂) 18:30~卒業投資会(札幌グランドホテル) 4 会 学部2年次生合宿研修・ガイダンス(6) (北広島クラッセホテル)【~6日(土】 学士編入学式及びガイガンス(10:36~) 2 年編入学式及びガイガンス(10:36~) 5 土 医学部医学科ガイダンス(9:00~)、医学研究機論、基本医学研究機論【一年日(金)】(学友会館「フラテ」ホール) 4 会 学部2年次生合宿研修・ガイダンス(3年)、新了後新猷行事【医学部図書館3階第1課堂】新久生力リエッテーション【9:30~11:00:高等教育推進機構】 総合教育部全体ガイダンス【11:15~12:30:高等教育推進機構】 基礎医学コース(2年次)進級ガイダンス(17:00~)及び学友会懇話会臨床実習・選択実習ガイダンス(9:00~)、基礎医学Ⅱコース(3年次)ガイダンス(8:45~)、臨床医学コース(4年次)ガイダンス(ま45~)、2~5年次授業開始 大学院授業開始 大学院授業開始 大学院授業開始 大学院授業開始 大学院授業開始 大学院授業開始 大学院授業開始				成績確認期間(学部(2・3年次))【~3月5日(水)】
4 火 (博士課租二次入学試験) 5 木 高桑紫松奨学基金授与式 11:30~ 7 金 大学院2学期・通年開講授業科目成績締切 10 月 課租博士公開発表会 (新力リキュラム) (3月修丁予定)公開発表会 (~14日(金)) 12 木 平成26年度本学第2次人学試験 (後期日組)実施 第9款験場(高等教育推進機構S棟) 担当【医学部《保健学科3専攻》】 13 木 教授会 (2・3年次進級判定) 数投会 (2・3年次進級判定) 3 木 第18日回医和国家試験合格者発表 (4:00北海道厚生局) 20 木 修士・博士課程 (6月修丁予定) 論文提出期限 (博士課程二次入学手続期間【~26日(木)】) 21 金 5年次授業終了 (6月修丁予定)論立提出期限 (博士課程二次入学手続期間【~26日(木)】) 21 金 5年次授業終了 (6月修丁予定)論文提出期限 (博士課程二次入学手続期間【~26日(木)】) 25 木 10:00~学位記授与式 (博士・修士・学士)、13:30~学士学位記伝達式 (学友会館「フラテ」ホール) 概以15:00~学士学位記伝達式終了後>~修士・博士学位記伝達式 (臨床大講堂) 18:30~年業祝賢会 (札幌グランドホテル) 4 3 木 大学院入学式 (修士10:00~, 博士13:00~)、医学研究概論、基本医学研究概論【~4日(金)】(学友会館「フラテ」ホール) 学士編入学式及びガイダンス (10:30~) 5 土 医学部医学科ガイダンス (学部別人試入学者対象)【時間未定】、終了後新軟行事【医学部図書館3階第1講堂】		28	金	全学教育科目成績確定《正午》
4 火 (博士課租二次入学試験) 5 木 高桑紫松奨学基金授与式 11:30~ 7 金 大学院2学期・通年開講授業科目成績締切 10 月 課租博士公開発表会 (新力リキュラム) (3月修丁予定)公開発表会 (~14日(金)) 12 木 平成26年度本学第2次人学試験 (後期日組)実施 第9款験場(高等教育推進機構S棟) 担当【医学部《保健学科3専攻》】 13 木 教授会 (2・3年次進級判定) 数投会 (2・3年次進級判定) 3 木 第18日回医和国家試験合格者発表 (4:00北海道厚生局) 20 木 修士・博士課程 (6月修丁予定) 論文提出期限 (博士課程二次入学手続期間【~26日(木)】) 21 金 5年次授業終了 (6月修丁予定)論立提出期限 (博士課程二次入学手続期間【~26日(木)】) 21 金 5年次授業終了 (6月修丁予定)論文提出期限 (博士課程二次入学手続期間【~26日(木)】) 25 木 10:00~学位記授与式 (博士・修士・学士)、13:30~学士学位記伝達式 (学友会館「フラテ」ホール) 概以15:00~学士学位記伝達式終了後>~修士・博士学位記伝達式 (臨床大講堂) 18:30~年業祝賢会 (札幌グランドホテル) 4 3 木 大学院入学式 (修士10:00~, 博士13:00~)、医学研究概論、基本医学研究概論【~4日(金)】(学友会館「フラテ」ホール) 学士編入学式及びガイダンス (10:30~) 5 土 医学部医学科ガイダンス (学部別人試入学者対象)【時間未定】、終了後新軟行事【医学部図書館3階第1講堂】	3	3	月	修士 (二次含む), 博士前期・後期入学手続期間【~7日(金)】
5 水 高条葉松奨学基金授与式 11:30~ 7 金 大学院2学期・通年開講授業科目成績締切 10 月 課程博士公開発表会[新カリキュラム](3月修了予定)公開発表会【~14日(金)】 12 水 平成26年度本学第2次入学試験(後期日程)実施 第9試験場(高等教育推進機構S棟)担当【医学部《保健学科3専攻》】 13 木 教授会(2・3年次進級判定) 数校会終了後, 违職記念式典《学友会館「フラテ」ホール》 17 月 4月入学研究生入学手税期間【~20日(木)】 18 火 第108回医師国家試験合格者差表(14:00北海道厚生局) 20 木 修士・博士課程(6月修了予定) 論文提出期限 (博士課程二次入学手続期間【~26日(木)】) 21 金 5年次授業終了 25 火 10:00~学位記授与式(博士・修士・学士)、13:30~学士学位記伝達式(臨床大講堂) 15:30~学業投資会(根展グランドカテル) 25 火				
 7 金 大学院2学期・通年開講授業科目成績締切 10 月 課程博士公開発表会 [新カリキュラム] (3月修丁予定) 公開発表会【~14日(金)】 12 木 平成26年度本学第2次入学試験(後期日程)実施 第9試験場(高等教育推進機構S棟)担当【医学部《保健学科3専攻》】 医学科教務委員会(2・3年次進級判定)新5年次臨床実習履修許可判定,6年次選択実習配属先決定(博士課程二次入学試験合格者決定))数授会終了後,追職記念式典《学友会館「フラテ」ホール》 13 木 教授会(2・3年次進級判定,新5年次臨床実習履修許可判定,6年次選択実習配属先決定(博士課程二次入学試験合格者決定)) 16 4月入学研究生入学手続期間【~20日(木)】 17 月 4月入学研究生入学手続期間【~20日(木)】 18 次 第108回医師国家試験合格者表表(11:00北海道厚生局) 19 本 住 作士課程二次入学手続期間【~26日(水】) 20 木 住 ・博士課程(6月修丁予定)論文提出期限 (博士課程二次入学手続期間【~26日(水】) 21 金 5年次授業終了 25 次 担 (100~学位記伝達式終了後)~修士・博士学位記伝達式(臨床大講堂) 18:30~李葉祝賣会(札幌グランドホテル) 18:30~李葉祝賣会(札幌グランドホテル) 4 金 学部2年次生合宿研修・ガイグンス合む(北広島クラッセホテル)【~5日(土)】 学士編入学式及びガイグンス(10:30~) 5 土 医学部医学科ガイグンス(学部別入試入学者対象)【時間未定】,終了後新教行事【医学部図書館3階第1講堂】 第7 月 新久生オリエンテーション【9:30~11:00:高等教育推進機構】,総合教育部全体ガイグンス【11:15~12:30:高等教育推進機構】 基礎医学コース(2年次)進級ガイゲンス(17:00~)及び学友会懇話会 臨床実習・選択実習ガイダンス(9:00~)、基礎医学Ⅱコース(3年次)ガイダンス(8:45~)、臨床医学コース(4年次)ガイグンス(8:45~) 2~5年次授業開始 大学院授業開始 大学院授業開始 8 次 10:00~北大入学式、14:00~医学科入学式(学友会館「フラテ」ホール) 		4	火	(博士課程二次入学試験)
10 月 課程博士公開発表会 [新カリキュラム] (3月修了予定) 公開発表会 [~14日(金)]		5	水	高桑榮松奨学基金授与式 11:30~
10 月 課程博士公開発表会 [新カリキュラム] (3月修了予定) 公開発表会 [~14日(金)]		7	金	大学院2学期・通年開講授業科目成績締切
12				
医学科教務委員会(2・3年次進級判定) 3 木 教授会(2・3年次進級判定) 新5年次臨床実習履修許可判定,6年次選択実習配属先決定(博士課程二次入学試験合格者決定)) 教授会終了後,退職記念式典《学友会館「フラテ」ホール》 17 月 4月入学研究生入学手続期間【~20日(木)】 18 火 第108回医師国家試験合格者発表(14:00北海道厚生局) 20 木 修士・博士課程(6月修了予定)論文提出期限 (博士課程二次入学手続期間【~26日(水)】) 21 金 5年次授業終了 10:00~学位記伝達式(博士・修士・学士),13:30~学士学位記伝達式(学友会館「フラテ」ホール)				
13				
17 月 4月入学研究生入学手続期間【~20日 (木)】		13	木	教授会(2・3年次進級判定,新5年次臨床実習履修許可判定,6年次選択実習配属先決定(博士課程二次入学試験合格
18				教授会終了後、退職記念式典《学友会館「フラテ」ホール》
20 木 修士・博士課程 (6月修丁予定) 論文提出期限		17	月	4月入学研究生入学手続期間【~20日(木)】
(博士課程二次入学手続期間【~26日(水)】) 21 金 5年次授業終了 25 火 10:00~学位記授与式 (博士・修士・学士)、13:30~学士学位記伝達式 (学友会館「フラテ」ホール) 概ね15:00<学士学位記伝達式終了後>~修士・博士学位記伝達式 (臨床大講堂) 18:30~卒業祝賀会 (札幌グランドホテル) 4 3 木 大学院入学式 (修士10:00~、博士13:00~)、医学研究概論、基本医学研究概論【~4日(金)】(学友会館「フラテ」ホール) 4 金 学部2年次生合宿研修・ガイダンス含む (北広島クラッセホテル)【~5日(土)】 学士編入学式及びガイダンス (10:30~) 5 土 医学部医学科ガイダンス (学部別入試入学者対象)【時間未定】、終了後新歓行事【医学部図書館3階第1講堂】 7 月 新入生オリエンテーション【9:30~11:00:高等教育推進機構】、総合教育部全体ガイダンス【11:15~12:30:高等教育推進機構】 基礎医学コース (2年次) 進級ガイダンス (17:00~) 及び学友会懇話会 臨床実習・選択実習ガイダンス (9:00~)、基礎医学Ⅱコース (3年次) ガイダンス (8:45~)、臨床医学コース (4年次) ガイダンス (8:45~) 2~5年次授業開始 8 火 10:00~北大入学式、14:00~医学科入学式 (学友会館「フラテ」ホール)		18	火	第108回医師国家試験合格者発表(14:00北海道厚生局)
21 金 5年次授業終了 25 次		20	木	修士・博士課程(6月修了予定)論文提出期限
25 大 10:00~学位記授与式 (博士・修士・学士), 13:30~学士学位記伝達式 (学友会館「フラテ」ホール) 根				(博士課程二次入学手続期間【~26日(水)】)
概ね15:00 < 学士学位記伝達式終了後> ~ 修士・博士学位記伝達式(臨床大講堂) 18:30 ~ 卒業祝賀会(札幌グランドホテル) 4 3 木 大学院入学式(修士10:00 ~ , 博士13:00 ~), 医学研究概論,基本医学研究概論【~4日(金)】(学友会館「フラテ」ホール) 4 金 学部2年次生合宿研修・ガイダンス含む(北広島クラッセホテル)【~5日(土)】 学士編入学式及びガイダンス(10:30 ~) 5 土 医学部医学科ガイダンス(学部別入試入学者対象)【時間未定】,終了後新歓行事【医学部図書館3階第1講堂】 7 月 新入生オリエンテーション【9:30 ~ 11:00:高等教育推進機構】,総合教育部全体ガイダンス【11:15 ~ 12:30:高等教育推進機構】 基礎医学コース(2年次)進級ガイダンス(17:00 ~)及び学友会懇話会 臨床実習・選択実習ガイダンス(9:00 ~),基礎医学Ⅱコース(3年次)ガイダンス(8:45 ~),臨床医学コース(4年次)ガイダンス(8:45 ~) 2 ~ 5年次授業開始 大学院授業開始 大学院授業開始 8 火 10:00 ~ 北大入学式,14:00 ~ 医学科入学式(学友会館「フラテ」ホール)		21	金	5年次授業終了
4 金 学部2年次生合宿研修・ガイダンス含む (北広島クラッセホテル)【~5日(土)】 学士編入学式及びガイダンス (10:30~) 5 土 医学部医学科ガイダンス (学部別入試入学者対象)【時間未定】,終了後新歓行事【医学部図書館3階第1講堂】 7 月 新入生オリエンテーション【9:30~11:00:高等教育推進機構】,総合教育部全体ガイダンス【11:15~12:30:高等教育推進機構】 基礎医学コース (2年次) 進級ガイダンス (17:00~) 及び学友会懇話会 臨床実習・選択実習ガイダンス (9:00~),基礎医学Ⅱコース (3年次)ガイダンス (8:45~),臨床医学コース (4年次)ガイダンス (8:45~) 2~5年次授業開始 大学院授業開始 8 火 10:00~北大入学式,14:00~医学科入学式 (学友会館「フラテ」ホール)		25	火	概ね15:00<学士学位記伝達式終了後>~修士・博士学位記伝達式(臨床大講堂)
学士編入学式及びガイダンス (10:30~) 5 土 医学部医学科ガイダンス (学部別入試入学者対象) 【時間未定】、終了後新歓行事【医学部図書館3階第1講堂】 7 月 新入生オリエンテーション【9:30~11:00:高等教育推進機構】、総合教育部全体ガイダンス【11:15~12:30:高等教育推進機構】 基礎医学コース (2年次) 進級ガイダンス (17:00~) 及び学友会懇話会 臨床実習・選択実習ガイダンス (9:00~),基礎医学Ⅱコース (3年次) ガイダンス (8:45~),臨床医学コース (4年次)ガイダンス (8:45~) 2~5年次授業開始 大学院授業開始 8 火 10:00~北大入学式,14:00~医学科入学式 (学友会館「フラテ」ホール)	4	3	木	大学院入学式 (修士10:00~, 博士13:00~), 医学研究概論, 基本医学研究概論【~4日(金)】(学友会館「フラテ」ホール)
5 土 医学部医学科ガイダンス (学部別入試入学者対象) 【時間未定】, 終了後新歓行事【医学部図書館3階第1講堂】 7 月 新入生オリエンテーション【9:30~11:00:高等教育推進機構】, 総合教育部全体ガイダンス【11:15~12:30:高等教育推進機構】 基礎医学コース (2年次) 進級ガイダンス (17:00~) 及び学友会懇話会 臨床実習・選択実習ガイダンス (9:00~), 基礎医学Ⅱコース (3年次) ガイダンス (8:45~), 臨床医学コース (4年次) ガイダンス (8:45~) 2~5年次授業開始 8 火 10:00~北大入学式, 14:00~医学科入学式 (学友会館「フラテ」ホール)		4	金	学部2年次生合宿研修・ガイダンス含む (北広島クラッセホテル)【~5日 (土)】
7 月 新入生オリエンテーション【9:30~11:00:高等教育推進機構】,総合教育部全体ガイダンス【11:15~12:30:高等教育推進機構】 基礎医学コース (2年次) 進級ガイダンス (17:00~) 及び学友会懇話会 臨床実習・選択実習ガイダンス (9:00~),基礎医学Ⅱコース (3年次) ガイダンス (8:45~),臨床医学コース (4年次) ガイダンス (8:45~) 2~5年次授業開始 大学院授業開始 8 火 10:00~北大入学式,14:00~医学科入学式 (学友会館「フラテ」ホール)				学士編入学式及びガイダンス (10:30~)
教育推進機構】 - 基礎医学コース (2年次) 進級ガイダンス (17:00~) 及び学友会懇話会 - 臨床実習・選択実習ガイダンス (9:00~), 基礎医学 II コース (3年次) ガイダンス (8:45~), 臨床医学コース (4年次) ガイダンス (8:45~) - 2~5年次授業開始 - 大学院授業開始 - 8 火 10:00~北大入学式, 14:00~医学科入学式 (学友会館「フラテ」ホール)		5	土	医学部医学科ガイダンス(学部別入試入学者対象)【時間未定】,終了後新歓行事【医学部図書館3階第1講堂】
臨床実習・選択実習ガイダンス (9:00~), 基礎医学 II コース (3年次) ガイダンス (8:45~), 臨床医学コース (4年次) ガイダンス (8:45~) 2~5年次授業開始 大学院授業開始 8 火 10:00~北大入学式, 14:00~医学科入学式 (学友会館「フラテ」ホール)		7	月	
ガイダンス (8:45~) 2~5年次授業開始 大学院授業開始 8 火 10:00~北大入学式,14:00~医学科入学式(学友会館「フラテ」ホール)				基礎医学コース (2年次) 進級ガイダンス (17:00~) 及び学友会懇話会
大学院授業開始 8 火 10:00~北大入学式,14:00~医学科入学式(学友会館「フラテ」ホール)				
8 火 10:00~北大入学式,14:00~医学科入学式(学友会館「フラテ」ホール)				2~5年次授業開始
				大学院授業開始
10 木 全学教育授業開始		8	火	10:00~北大入学式,14:00~医学科入学式 (学友会館「フラテ」ホール)
		10	木	全学教育授業開始



(撮影:野入 由起子)

- 広報室便り28 -

90周年事業で改築された医学部管理棟が迎える4度目の冬、正面にあしらわれているレリーフやクラシカルな 佇まいの建物が、雪景色のなかで一層引き立ちます。昨年12月からはレリーフを中心に22時までライトアップさ れていますので、今後は夜景も楽しみです。さて広報室の制作業務も毎年、春から夏にかけての前半期は、イベントに合わせて主に紙媒体の制作を行い、秋から冬にかけての後半期はウェブの改修業務を中心に行っています。 現在は、大学院進学希望者向けウェブサイトの改修業務を行っています。 本改修では、研究者の先生方や研究室 のこと等を魅力的に伝える新企画「分野紹介」を通して、医学研究科が世界を舞台に多彩な取り組みを行っていることを発信すべく準備中です。改修オープンは2月初旬を予定しています。ぜひチェックしてみてください。

(広報室員 和田 雅子)

編集後記

ご多忙の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。2014年が明けてその年頭を飾る本号では、 笠原医学研究科長の年始ご挨拶に始まり、本医学研究科が人材任用や競争的資金獲得といった戦略的に研究を推 進する体制を工夫・整備して新年を迎えたことが記されています。教育面では、研究者育成プログラム (MD-PhD コース) が順調に機能し、やる気のある有望な若手たちの育成が進んでいることが伺えます。受賞報告では、浅 香特任教授の輝かしい国際的受賞をはじめ北大医学研究科の底力が感じられます。さらにプレスリリースでは、 研究者たちのホットな論文紹介が続きます。また本号では、衆議院議員に当選された勝沼栄明先生(医学部76期) の笠原医学研究科長、宝金病院長、安田副学長への表敬訪問といったユニークなコーナーもあります。年頭を飾る本号は、北大医学研究科の2014年への飛翔を感じさせる内容となりました。

(広報編集委員 石田 晋)

--- Home Page のご案内 ---

医学研究科/医学部医学科広報は

http://www.med.hokudai.ac.jp/ko-ho/index.html でご覧いただけます。また、ご意見・ご希望などの受 付けメールアドレスは、

goiken@med.hokudai.ac.jp

となっております。どうぞご利用ください。

北海道大学大学院医学研究科/医学部医学科

発 行 北海道大学大学院医学研究科·医学部医学科 広報編集委員会

060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

連絡 先 医学系事務部総務課庶務担当

電 話 011-706-5892

編集委員 田中 伸哉 (委員長)、石田 晋、

大場 雄介、佐藤 松治